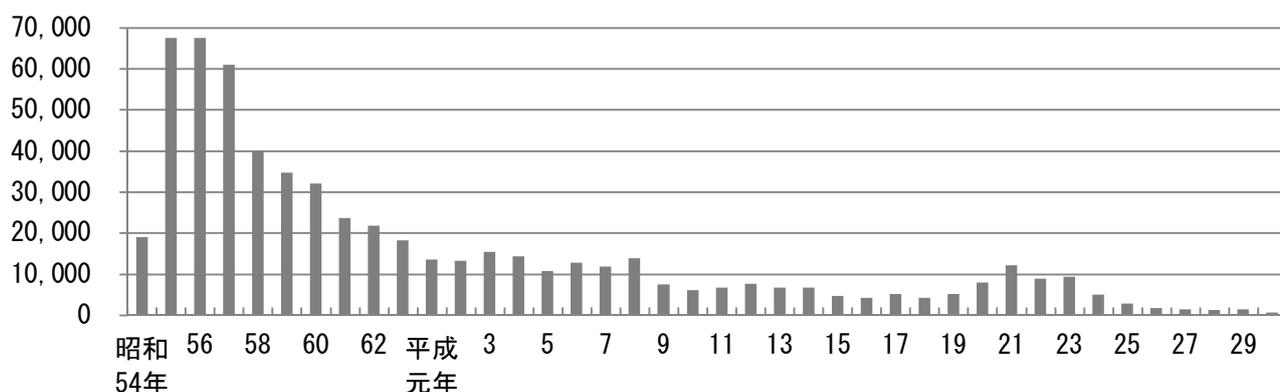


6. 森林の保護

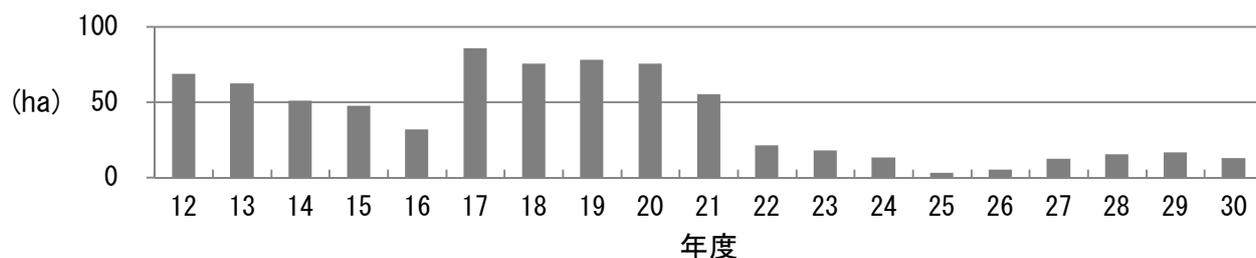
(1) 森林病虫害の防除

—松くい虫被害対策及びサンプスギ林の再生—

松くい虫被害量の推移



スギ非赤枯性溝腐病被害対策の実績



(注) 平成9～16年度はサンプスギ溝腐病総合対策事業、平成17～21年度はサンプスギ林再生事業、平成22～24年度は被害森林再生・資源循環促進事業、平成25年度～はサンプスギ林再生・資源循環促進事業

ア 松くい虫被害対策

松くい虫被害は、昭和22年に君津市で確認され、県中央部(夷隅・長生・千葉)に拡大した後、松林が集中する北総地域にまん延し、昭和56年には被害量が67千m³と最高値を示した。

その後、薬剤散布及び被害木駆除等の各種防除対策を実施してきた結果、被害量は徐々に減少し、平成19年度までは約4～5千m³で落ち着いていた。しかし、平成20年度から九十九里海岸地域で被害量が増加し、平成21年度は約1万2千m³の被害量となり、平成23年度は安房地域で被害が急増し、約9千m³の被害量となった。平成24年度以降は減少傾向にあり、平成30年度は約6百m³となっている。そのため、今後は、保安林等公益的機能の高い松林を中心に生活環境や自然環境に配慮しながら従来の防除を徹底するとともに、より効果的な被害対策を検討する必要がある。また、疎林化した松林の再生のために育種事業や治山事業等と連携し総合的に対策を講じていく。

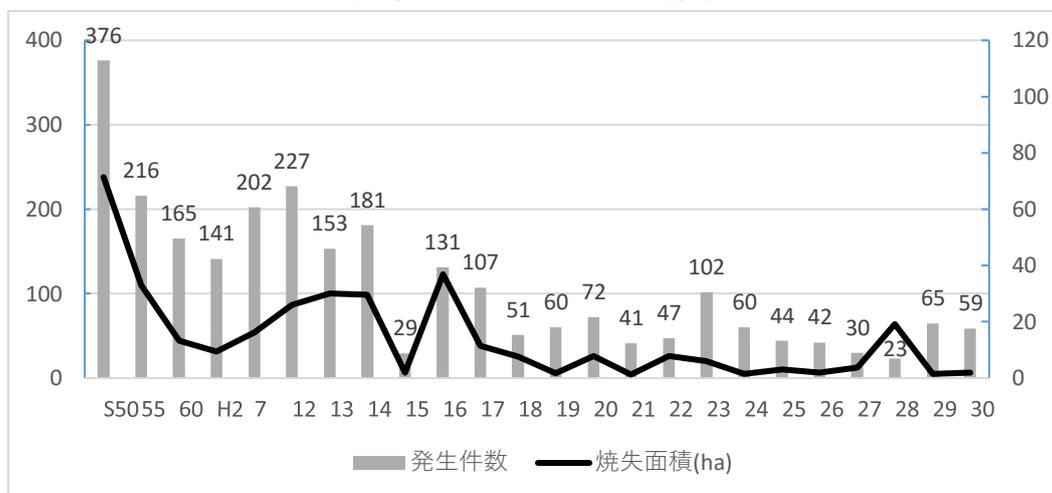
イ スギ非赤枯性溝腐病被害対策

スギ非赤枯性溝腐病の被害を受けた森林の再生のため、被害木の伐倒・搬出及び伐採跡地の植栽等を計画的かつ総合的に実施し、健全で活力ある森林への再生を図った。平成30年度には、伐倒・搬出12.51ha、植栽7.29haを実施した。

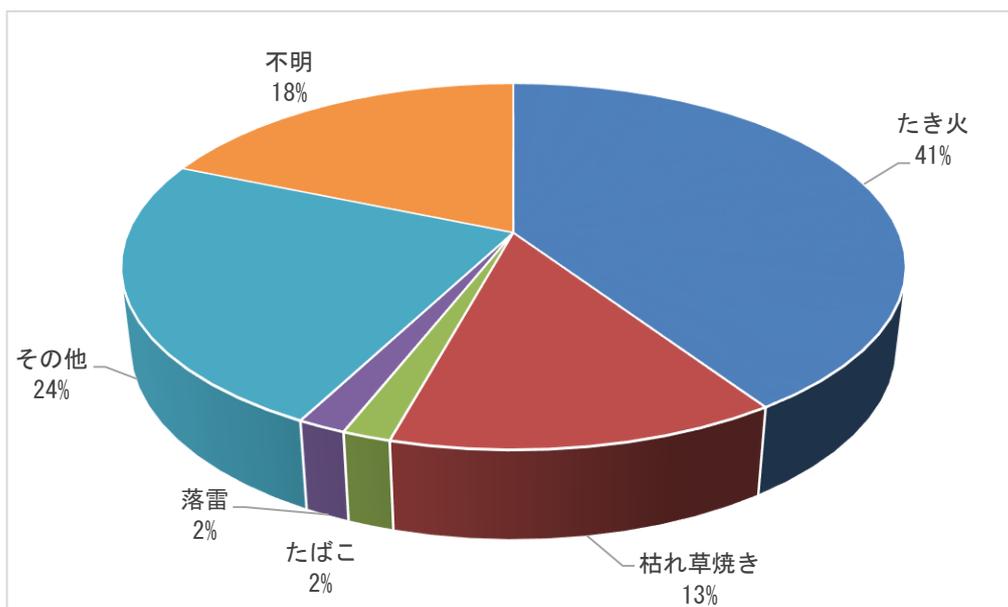
(2) 林野火災

—件数は減少したが、面積は増加—

林野火災の発生状況の推移



平成30年次 林野火災の原因別内訳



平成30年次の林野火災による焼失面積は1.85ha、出火件数は59件で、前年と比較すると出火件数は6件減少したが、焼失面積は0.38ha増加した。

発生時期をみると、火災の発生しやすい気象条件となる1～3月に全体の44%が発生しており、出火原因については、「たき火」が41%で最も多く、次いで「その他」が24%、「原因不明」によるものが18%でこれに次いでいる。

平成30年度は、春期に千葉県山火事予防運動を実施し、県民に防火意識の啓発を図った。